

一週間という期間の長さ

2E ハラケン (原 賢)

§ 1 前置き

年をとるにつれて1年がどんどん短く感じるようになる。というのはよく聞く話です。筆者もそれを強く感じています。確かに、体感する長さは短くなっているように感じますが、果たしてどれ程の事が成せる期間なのでしょう？ 今回1年間で調べる事は出来ないかもしれませんが、十分な期間であると思われる1週間で調べてみました。

(まあ、この会誌の締め切りまでが1週間少ししかないから仕方が無…ハッ！ゲフンゲフン)

§ 2 意図

この企画は、以下の筆者の意図により始まったものです。

- ・ 1週間の長さを、体感する長さ(量的な長さ)だけで無く、1週間がどれくらいの事が出来る長さであるのか、質的な長さをはっきりさせたい！
- ・ そうして、この記事を読んだ人が、1週間の価値を再認識して漫然と年を取っていくのではなく、成長し続けられるような一生を送れるような気持ちになれば良いと思います。
- ・ 特に書いた自分が、1週間の価値を再認識し(ry ←(実はこれが一番の目的であったり…))

§ 3 内容

1週間で、ティンホイッスル(*1)がどれくらい吹けるようになるかを体験したいと思います。なぜティンホイッスル？と多くの方は思うと思いますが、初心者でもわりと簡単であるということを知ったので、今回選びました。もちろん単純にやりたいからってのが一番の理由ですけど。

なので、この記事の内容としては、実際にどのくらい吹けるようになったのかを以下この記事に文で書いていくこととなります。ただ、詳しく書いていくつもりですが、実際の音がないと、結果をさらしたとするにはちょっと弱い気がします。そこで、皆さん x680x0 同好会の会誌が今触れている紙冊子のもので無く、web 版があるということを知っていますか？そこに可能ならば、さらそうと思います。続きは web で！

←検索！検索！

ここまで言うておいて、知的財産権の問題だとか、録音環境が無いだとか、恥ずかしいだとかであがっていない可能性があります。こんな企画に興味を持ってくれる人がいたとしたら、本当に申し訳ないです。でも大丈夫です！その時は、他の部員による、ためになる記事を読みましょう！

§ 4 始めるに当たってルール

これは誰にも言わないで秘密裏に実行します。コレにはいくつかの理由があります。

- ①人に言う事でやらなきゃいけないという義務感が発生するのは、皆さんに伝えたいと思っている内容である、「趣味の範囲でやっていきどれくらいその趣味が深まるか」という趣旨から外れてしまうからです。そういう意味では、web にさらすというのも、悩み所ですが、発表しない

とそもそもこの記事がやりっぱなしで終わってしまう事になると思ったので、する予定です。意識しないで**ありのままの気持ちで実行できるように努めます。**(追記…ありのままの気持ち**余裕でした！**つか、もう少し焦れよ…自分…。)

②この記事の web 上にさらすという意味があったことや、**最悪この記事自体を無かった事にもできる**っていうことも有ります。(この文が皆さんの目に触れているということは、この事態は逃れたかと思います。)

③勢いで笛を買ったので、みんなに言うのは**恥ずかしかったので言えなかった。**

……それにしても気持ち的に**半分以上が自分の都合**によるものとは…コレはひどい。

§ 5 本番開始！

一日目

このティンホイッスルという笛は、ふさぐ穴が表の6つしかなく、高い音ほど強く吹く必要があり、吹く事で1オクターブ上の音が出るという仕組みです。この仕組みの事もあいまって、ある音が出したいのであれば、大方音量が決定されることとなります。**マヌケな音を大きな音で鳴らすのはなかなか恥ずかしい…。**しばらくしてだんだんつかんでくる感覚がしました。思い切って吹く事がコツかもしれないと感じました。そして個人的に好きな曲である、「スカボローフェア」(*2)が吹けるようになりました！この調子でいければ結構良いでしょう！**ただ、この仕様が自分の首を絞める事になろうとは、うっかり筆者はその時にはまったく気づかないのでした…。**

この日の成果 練習時間(1時間ぐらい)

ティンホイッスル(入門セット)を手に入れた！

音が出せるようになった！

とりあえずふける程度の「スカボローフェア」を覚えた！

二日目

今日は一日中バイトです(朝の11時に出かけたら夜の11時まで帰ってこられない)。まあこういう**日常の生活の中でどれくらいできるのかを調べるんだし、まあ大丈夫でしょう！**と、まだ楽観的に構えています。行く前に少し触れる時間が有ったので、吹いてバイトへ。へトへトになって帰ってきた時、**ココでまさかのハプニングが！**もとい、ようやくうっかり筆者が気づいた…笛だとどうしても音が出てしまうので、ご近所付き合い的な意味で、**夜には絶対に練習ができない！！練習しない事にはこの企画が成り立たない！！**コレはかなり、この企画においてネックとなりなるでしょうし、本当になりました。

この日の成果 練習時間(10分ほど)

1オクターブ上の音の演奏が若干上手くなった！

三日目

今日も一日中バイトです(朝の11時～夜の11時)。昨日帰った時から、やはり朝にやらねば！と考えていたので、少し早めに起きて身支度をし、出発までの空いた時間を練習に当てました。といってもどうしても多くの時間は取れない…ただ曲の練習を始め、初めのほうの簡単な曲を3

曲ほど暗譜できました！ティンホイッスルのやさしさに感謝！

この日の成果 練習時間(20分ほど)

簡単な曲3曲を暗譜した！

4日目

今日も一日中バイトです(朝の11時(ry)。朝の忙しい時間の練習は、本当にあっという間に終わってしまいます(本当に時間的に短いんですけど！)。書く程の事は特に無いです。というより、**書くほどの上達が無い！**ってのが一番書くべきことなのでは…。

今日の成果 練習時間(20分ほど)

上手くなった！……気がする。

5日目

今日はやっとフリーな日！とにかくいろんな曲を吹けるようになりたいので、原曲を聞いてはスコアをなぞって吹くということを繰り返し繰り返し。26曲もスコアがあるんだし、半分くらいは出来ればいいなあ…と、思い練習を始め、何とか目標を達成しました。ティンホイッスルよ、お前はつくづく自分に優しいな。心の底からありがとうを言わせてくれ。また、レベルが一段階高い曲「Drowsy Maggie」(*3)に挑戦してみました。連日の疲れを癒すために、のんびりする事にも時間を当てたり、睡眠時間をとったり、という具合だったのでずっとは練習できませんね。

今日の成果 練習時間(3時間ほど)

とりあえず吹ける程度だが、吹ける曲が一気に増えた！

オクターブ上の音を出すのが上手くなった！

指の動きそのものに少し慣れた！

6日目

今日もやっぱりバイトです。昨日の夜、CDを聞きながら寝ていたときにふと気づいた装飾音、コレがつけられるとカッコいい！と思い、とりあえずふける程度の曲たちの反復練習もかねて、装飾音をつける練習をしました。この笛における装飾音とは、①目的の音を出す前に少し低い音を一瞬鳴らす。②音を伸ばす時に、スコアの音とそれより低い音を細かく繰り返す。以上の2種類が、CDを聞いていてははっきりわかりました。ただ、どちらも指の運動量が増えるので、それだけ動きが煩雑になり、その動きを指が再現出来ない…なんか掴んだようなそうでもないような感覚のまま、バイトへ…このままではあまりにもひどいので、**布団をかぶって笛の練習をすれば、音は漏れないのではないだろうかという考えを実行しようとしたが、事前に看破されました。**ぐう。世界の宇多田はデビューする前に、家族にうるさいといわれながらも、布団にもぐって歌の練習をしていたというエピソードがあるんだから自分だって…！と反論するも、**素人の笛が世界の宇多田の歌と同様に扱われようとするとは！おこがましい！！**と言われ、次の言葉も出ず沈黙。とりあえず宇多田ファンの皆様にこの場を借りて陳謝。

今日の成果 練習時間(30分ほど)

装飾音が上手くなった！…気がする。

とりあえず吹ける曲たちのレベルが上がった！

七日目

今日もバ(ry。装飾音との戦いが続いています。それでも、やっぱり滑らかな動きでなく、無理やり音を追加して元の曲を汚しているような感じになっちゃってます。まあ、この笛とはもつと長く付き合っていけそうだ！という事で、許してください…

今日の成果 練習時間(20分ほど)

装飾音が上手くなった！…気が…

§6 まとめ、感想

今回、1週間中5日間バイトという偏った期間だったんですが、なんだかんだで学校に通っている生活と近いので、それもよかったかなって気がしています。何かをやる時に必要なのは「やる気」と「時間」だっけ事を改めて実感しました。趣味っていう自分のやりたい事ならば、後は時間を見つける工夫だけです。それにしても、成長を見せるという当初の目的をどれくらい果たしているんでしょうか？なんて意味の無い記事なんだろうか…最終日の成果がそれを全て物語っている…。これから来る時間を大切に過ごす事も大切ですが、この記事を読むのに時間を使ってしまった事に対して、後悔するような気持ちになったのならば、この経験を通じて過ぎ去っていった時間の大切さにも気づいていただけたら、と思います。っていうような喧嘩を売っているとしか思えない結論で逃げるしかないです。§2意図の2つ目を書いた自分が恨めしい。そんなネタ振りなんぞしおって、もとい見てて恥ずかしい文を書きやがって！当時の自分は万死に値する！

注釈……？

* 1 「ティンホイッスル」とは別名「ペニーホイッスル」とも呼ばれるアイルランド発祥といわれる笛の事である。主にケルトと呼ばれる曲で使われる。ティンとは真鍮、ブリキの事であり、その名の通り真鍮で出来た筒の部分と、プラスチック製のフィッフル(歌口。口をつけて息を吹き込む部分の事)で出来ている。色々優しい。今回使ったのは、スコアとCDがついて2980円ときわめて廉価である。このようなお財布への優しさと、初心者でもすぐ音が出せたことから、音楽センスが無い自分への優しさを兼ね揃えたと考えられる。とってもナイスで素敵な笛。愛してるぜ！

* 2 「スカボローフェア(Scarborough Fair)」とは、英国の伝統的バラッドである曲の名前である。16~17世紀に、「エルフェンナイト」という曲を作り変えて出来た曲であるとされており、長い歴史を持つ曲である。サイモン&ガーファンクル(Simon and Garfunkel)によって有名になった編曲は19世紀末に生まれたもので、メロディが大きく変更されている。起源はともかく、郷愁を誘う曲調がたまらないナイスで素敵な曲。愛してるぜ！

* 3 「Drowsy Maggie」とは、アイルランド北部ドニゴール地方の曲。かの映画「タイタニック」にも使われた曲である(らしい)。テンポが速く、かつ音程の移動の幅も大きい。一言で言って難しい曲。今回使ったスコアでも最後に載っているの、コレがふけるようになった時、晴れて笛吹き仲間入りを果たす事になるだろうと筆者は勝手に考える。曲はというとこれまた素敵な曲で、タップダンスが似合いそうなカッコいい曲である。愛s(ry